

第3・4学年 図画工作科学習指導案

立案者 藤本 賢春（2022年度制作）

1 題材名 よりみちエレベーターでレッツGO！（読書感想画）

（絵や立体，工作）

〈A表現（1）イ（2）イ，B鑑賞（1）ア，共通事項（1）ア，イ〉

2 題材設定の理由

徳島県の小学校では、毎年全学年で「読書感想画」の指導が実施されている。この学習の目的は、「第33回読書感想画中央コンクール」のホームページ内にある、「どうして読書感想画を描くのですか。」という問いの答えから分かる。その答えは、「読書の感動を絵に描くことは、あなたの読書体験をより深く豊かなものとします。どうやって自分のイメージを色や形にするか、構図はどうするかなど、手を動かし頭を働かせることがあなたの表現力や発想力・想像力を鍛えます。」というものだ。つまり、読書感想画指導の目的は、「A読書感動画を描くことで、子供の読書体験をより深く豊かなものにすること」、「B読書感動画を描くことで、子供の表現力や発想力・想像力を鍛えること」であると分かる。

このような目的の下、「読書感想画」の指導は実施されているのだが、多くの教員はこの指導の在り方で頭を悩ませている。このことは、図工の研修会で実施したアンケート結果からうかがえる。主な悩みとして、「①どんな本を基に描かせたらよいか」や、「②みんな同じような作品になってしまう」こと、「③コンクールありきの時間になってしまっている」ことや、「④なかなか描き始められない子供が出てしまう」こと、「⑤子供に読書感想画を描く意欲を感じられない」ことなどが挙げられていた。②や③や⑤に関しては、図工の目的、読書感想画指導の目的の両方に沿っていないと考えられるため解消したい悩みである。そこで、中学年においてこれらを解決できる題材がどのようなものであるか考え、本題材を設定した。

本題材は、「国語の時間と連携しながら」進めていく。理由は、図工の時間だけで、読書感想画指導の目的を達成することが難しいと考えたからだ。学習指導要領によると、国語の中学年における目標が、「幅広く読書に親しむ」ことになっている。そのため、子供に読書感想画を描くための本選びをさせてもよいと考える。しかし、今回は一つの本を読み聞かせる中で、読書感想画指導の目的AB両方の達成を目指すことにした。その理由は、前段で挙げた読書感想画指導での主な悩み①に応えるためであり、新たな悩みを生まないためでもある。もし、子供一人一人が違う本を選ぶことになったなら、「一人一人に違う指導が必要になるのか」という新たな悩みが発生するだろう。そこで、読み聞かせる本は一つだが、子供一人一人の広げられる想像の幅は無限大になるような本はないか考えた。その中の一つとして、本題材では「よりみちエレベーター」（徳間書店より2000年に出版、土屋富士夫作・絵）という絵本を選び読み聞かせを行い、読書感想画の指導をすることにした。

「よりみちエレベーター」は、主人公がエレベーターに乗り、1階から5階のおばあちゃんの家まで届け物をもっていくというお話である。しかし、すんなりとは5階まで進むことができず、1階、2階、3階、4階と思ってもよらない非現実世界に到着し、主人公が各階で小さな冒険をしたり、驚いたり、怖がったり、楽しく遊んだりしていく。5階に着いた主人公は、おばあちゃんに届け物を渡した後、すぐにエレベーターに戻っていく……。この読み聞かせが終わった後、子供の読書体験をより深く豊かなものにし、子供の発想力・想像力を存分に膨らませるため、「主人公はこの後、どうしたのかな？」と子供たちに問いかける。この問いに対して子供たちは、「1階、2階、3階、4階のいずれかの世界へ行った」というような、読み聞かせの内容を追う答えを返してくるだろうと考える。ここで教師は、「どうしてその階に行ったのかな？」と理由を聞き、子供の読書体験を深めていく。そしてさらに、「よりみちエレベーターは絵本に出てきた世界としかつなげてないのかな？」と問うようにする。この問いが、本題材の要点になる。この問いにより、子供の発想力・想像力の広がり無限

大になる。この問いに対して子供たちは、「隠し階があるかもしれない」や、「よりみちエレベーターに頼んだら〇〇にだっていけるかもしれない」といった答えを出してくるだろうと予想する。このように、国語の時間に子供の想像力を目一杯に膨らませ、図工の時間へと移行することができれば、前々段で示した①～⑤はおおよそ解決されるのではないかと考える。

しかし、中学年になると、どれだけ想像は膨らんでも、そのイメージを絵に表すことができずに手を止めてしまう子供が出てくることも考えられる。なぜなら、中学年時期の子供は「描き表したいものをそれらしく(写実的に)表現したい」と思うようになってくるからだ。そこで、適切な資料を子供に与えてやることや、タブレット端末で資料の検索方法を教えてやるような手立てをとることが必要になってくると考えられる。こうすることで、子供は写実的な表現をしやすくなり、自分が膨らませたイメージを基に描き進められるようになる。他には、膨らませた想像の世界を、アイデアスケッチしたり、簡単な絵や言葉で表現して考えたりする時間を作ってやる手立ても考えられる。中学年時期の子供は、低学年時期に比べ「自分がイメージしたことを、ある程度確認してから描き始めたい」と思うようになってくる。この活動をしておくことで、大きな画用紙上への表現も難なくできるようになり、「④なかなか描き始められない子供が出てしまう」という悩みのさらなる解消法にもつながるだろう。ここまで述べてきたような活動ができれば、読書感想画の目的の達成とともに、①～⑤の悩みも全て解消できるのではないかと考える。

アイデアスケッチをしたり、簡単な絵や言葉で表現して考えたりした後は、既習の「にじんで広がる色の世界(開隆3・4上:平成31年検定済教科書)」や、「絵の具でゆめもよう(日文3・4下:平成31年検定済教科書)」などで学んだ表現方法を思い出させ、それらを活用できる環境下で製作させていく。既習の表現方法とは、絵の具を多めの水の上に少しつけてにじませたり、スタンプングや霧吹き絵などのモダンテクニックを使ったりすることである。子供たちには、これらの表現方法を上手く活用しながら、自分が思い描いた「よりみちエレベーターで向かった先」を楽しく絵に表してほしい。他に、子供が考えている「よりみちエレベーターで向かった先」を表現するための助けになるだろう上記以外の材料や用具も用意しておきたい。例えば、色紙、ろうそく、クレヨン、コンテ、ラメなどである。教師は、子供が考えている「よりみちエレベーターで向かった先」のイメージに寄り添い、どのような表現方法が活用され、どのような材料や用具があればよいのか考え、教室環境を整えておくようにしたい。

このように、子供一人一人が想像を広げながら「よりみちエレベーターで向かった先」を工夫して絵に表すことで、読書感想画指導の目的の達成とともに、図工が目指す「子供の創造性を育成する」こともできると考え、本題材を設定した。なお、出来上がった作品は、図工の時間に「造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方」などについて友達同士で感想を出し合い、子供一人一人の見方や感じ方を広げるために活用する。そして、国語の時間で「よりみちエレベーター」を読み、読書感想画を描いたことで新たに気付いたことや感じたことなどを出し合わせ、冒頭に示した「A読書感動物を描くことで、子供の読書体験をより深く豊かなものにすること」、「B読書感動物を描くことで、子供の表現力や発想力・想像力を鍛えること」の達成を目指す。以上のことから、本指導は「中学年における読書感想画指導」になると考える。

3 題材の目標

- (1) 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かり、思い描く「よりみちエレベーターで向かった先」を絵に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。
(知識及び技能)
- (2) 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもち、想像したことから表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように「よりみちエレベーターで向かった先」を表すかについて考えるとともに、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
(思考力、判断力、表現力等)

- (3) 自分が思い描く「よりみちエレベーターで向かった先」を表現したり鑑賞したりする活動に
 取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造し
 ようとする。(学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。 自分が思い描く「よりみちエレベーターで向かった先」を絵に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 | <ul style="list-style-type: none"> 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもち、想像したことから、表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように「よりみちエレベーターで向かった先」を表すかについて考えている。 自分たちの作品やその製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 | <ul style="list-style-type: none"> つくりだす喜びを味わうとともに、自分が思い描く「よりみちエレベーターで向かった先」を進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。 |

5 指導と評価の計画（国語2時間、図工6時間）

図工での指導に入る前に、国語の時間を使い、「よりみちエレベーター」の読み聞かせを実施する。そして、主人公が「よりみちエレベーターで向かった先」を予想した後、自分なら「よりみちエレベーターでどこへ行きたいのか」、「そこで何をしたいのか」について考えさせ、子供一人一人の「よりみちエレベーターで向かった先」のイメージを膨らませたい。その後は図工の時間に、子供一人一人が膨らませた「よりみちエレベーターで向かった先」のイメージを絵に表すことができるよう、次のような指導と評価を行い実践していく。

なお、作品が完成した後には、図工の鑑賞とは別に、国語の時間に「よりみちエレベーター」を読み、読書感想画を描いたことで新たに気付いたことや感じたことなどを出し合わせ、「A 読書感動画を描くことで、子供の読書体験をより深く豊かなものにすること」や、「B 読書感動画を描くことで、子供の表現力や発想力・想像力を鍛えること」の達成を目指し、本活動を振り返らせる。

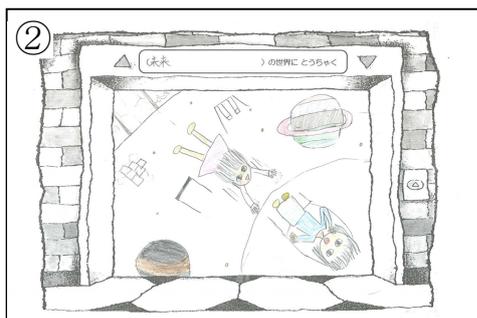
| 時間 | ねらい・学習活動 | 評価の観点 | 評価方法等 |
|----|---|---------------------------|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 「よりみちエレベーターで向かった先」について主体的に考えたり、想像を広げたりしながらアイデアスケッチをする。 「よりみちエレベーターで向かった先」に関する自分のイメージから、表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表わせばよいか考えてアイデアスケッチをする。 | 態 ○ 思 ○ (発想や構想) | <ul style="list-style-type: none"> 「よりみちエレベーターで向かった先」について主体的に考えたり、想像を広げたりしながらアイデアスケッチに取り組もうとしているか観察する。 (観察・発言・対話) 「よりみちエレベーターで向かった先」に関する自分のイメージから、表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表わせばよいか考えてアイデアスケッチをしている様子を観察する。 (観察・発言・対話) |

| | | | |
|-------------------------------------|---|---|--|
| <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチしたことを基に、表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように「よりみちエレベーターで向かった先」を表わせばよいか考える。 ・「よりみちエレベーターで向かった先」を絵に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫する。 ・自分の感覚や作品づくりを通して、「よりみちエレベーターで向かった先」にふさわしい形や色などの感じが分かる。 | <p>思 ◎ (発想や構想)</p> <p>技 ◎</p> <p>知 ◎</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチしたことを基に、表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように「よりみちエレベーターで向かった先」を表わせばよいか考えている様子を観察、記録に残す。 (観察・発言・対話) ・「よりみちエレベーターで向かった先」を絵に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫している様子を観察し、記録に残す。 (観察・作品・対話) ・自分の感覚や作品づくりを通して、「よりみちエレベーターで向かった先」にふさわしい形や色などの感じが分かっているか観察し、記録に残す。 (観察・作品・対話) |
| <p>6</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達の「よりみちエレベーターで向かった先」の絵を見合いながら、それらのよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。 | <p>思 ◎ (鑑賞)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達の「よりみちエレベーターで向かった先」の絵を見合いながら、それらのよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている様子を観察し、記録に残す。 (観察・作品・対話・ワークシート) |

【活動の様子(3年生)】

① その夢の世界には なにがありますか？ なにがいますか？
思いつくだけかきましょう。

きかいがしゃんかしている。
ゆうぐがういてる。いつか
未来の自分との出会い。
未来の中で自分が発めいする人
になっている。家はうちゅうにある。



左の写真は、25作品中の1作品が出来上がるまでの様子である。

①で、よりみちエレベーターで行きたい世界には「何があるのか」書き出し、②でその世界のイメージを絵に表している。③は、似たような世界に行きたい友達とグループになり、資料を共有している様子。④が完成作品である。資料や、友達の絵が刺激となり、②よりも想像の広がり、様々な工夫が見られる作品になっている。

